

「豊かさの尺度」

玄番真紀子

四国の山深い村に引っ越して19年になる。大阪にいた頃、小さい子どもを抱えて電車やバスに乗るのも「迷惑」をかけないよう、いつも周りに気を遣い小さくなって子育てしていた。泥んこになって遊び、好きなだけ草花を摘み、親子で季節を感じながらのびのびと子育て、子育てできるところを望んでの家族移住だった。

引っ越してすぐ、乗ったバスで0歳の娘をずっと抱っこしてあやしてくれたおばあちゃん、「子どもは宝じゃ」と娘たちに目を細める近所のおじいちゃん。ところ変わればここまで違うのかと驚いた。

過疎地は決して寂しいところではなく、そこには子どもに優しい環境と生涯現役の高齢者たちのたくましい暮らしがあった。野菜は畑で自給し、山菜や野菜を漬物や乾物などの保存食にする。時には一人黙々と、時には助け合って、じいちゃん、ばあちゃんは日々忙しい。そんな暮らしぶりをじっと見てきた娘たちは、経験を重ねた高齢者を畏敬の念を持って見つめ、自分もそうありたいと思っているという。

季節折々、自然と共にある暮らしは美しい。そして豊かだと思ふ。しかしながら、その豊かさは求めていた私が感じているものであって、山作（焼畑）で稗を作り必死に命を繋ぎ、戦争も経てきた人たちにとって、ものがなんでも手に入る今が豊かでありがたい時代だと言う。確かにそうだ。

豊かさの尺度は人それぞれ。最中にいると当たり前すぎて、無いからこそ、または無くして初めて意識して求めるものなのかもしれない。西洋の nature に相当する言葉はかつてこの国には存在しなかった。「自然」が当たり前すぎたのだ。ドイツの環境ジャーナリスト今泉みね子さんが村の小学校を見学し、「子どもたちの絵が緑色の背景が多いのは幸せなこと。ドイツは環境先進国というが、いち早く緑を失って取り戻すのに必死なんですよ」と語った。フィリピンの NGO 職員は、「日本では伐採しても緑がまた生えてくるんですね。日本のパルプ材として皆伐されたフィリピンの山は植林しても根付かず土がむき出しのままなのに」とやるせない顔をしてつぶやいた。

当たり前の風土、そこに根ざした暮らしの知恵とコミュニティ。急速に失われる地球環境と変化する社会情勢のなか、今こそ無くしてしまう前に、取り返しがつかなくなる前にその豊かさを意識して気づきたいものである。



あとがき

この2年間の調査やワークショップをひとまずまとめてみたのですが、改めて膨大な情報と向き合うと、どのように分析し整理すべきが悩みました。さまざまなお声もいただき、「これで上手く整理できる」「市民調査の手法として成立する」と何度も喜ぶのですが、それを実際に地域などで試すとやはりうまくゆかないことが多いのです。

今回は「地域のモノサシ」という視点から候補を上げてみましたが、「各自の自然との付き合いのモノサシ」となるとまた違う候補が上がってきますし、整理の仕方も変わってきます。

できたモノサシをどのように活用して、高知の暮らしと自然の関係性を読み解き、高知の豊かさをどうとらえてゆくか、今まで関心のなかった人たちにどう働きかけるなども含め、どんな使い方ができるか、地域の為にモノサシを使い具体的に何ができるかを考えると、まだまだ踏み込みが浅いと感じます。

市民調査の手法を狭い範囲で納めず、高知県はもちろん、似たような課題を持つ地域で役に立てるためには、もっと多くの方のお声やお知恵をいただく必要があると感じています。

2018年はいよいよ市民調査の手法を確立させます。そして地域での「モノサシつくりワークショップ開催」ができる人材の育成や発掘も進めてゆきます。

この冊子を手に取り、興味を持たれた方はぜひ我々にお声掛けくださいますようお願いいたします。

そして『暮らしの中の自然モノサシ市民調査』地域ワークショップ開催のお誘い

町や山。そして川と海。旬の食材行事、風物、生きもの、動物や植物。人々が日々の暮らしの中で無意識に感じている高知の「自然の豊かさ」を再発見するためにわたしたちは『暮らしの中の自然モノサシ市民調査』を行っています。

みなさんの生活や地域で「豊かさ」や「幸せ」と感じるコトやモノ、あるいは場所や行事などなどを教えていただくために、高知県内の様々な地域や団体等々にてワークショップを開催させていただいております。そこで得られた成果は参加者の皆様の課題解決にも役立つかと思ひます。是非開催をご検討ください。

お問い合わせはこちらまで。「暮らしの中の自然モノサシ」<http://sizenmonosasi.org>

最後に

各地域や団体の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。中土佐町上ノ加江地区・大月町・四万十町大正中津川地区・奈半利町米ヶ岡地区・香美市平山地区・香美市立楠目小学校・NPO法人環境の杜こうち・地域交流施設ほっと平山・(株)土佐山田ショッピングセンター・高知生物多様性ネットワーク・高知オーガニックマーケットほか諸団体、多数の皆様ありがとうございました。

高川晋一（公益財団法人日本自然保護協会）
長谷川雅子（一般財団法人CSOネットワーク）
大原 泰輔（特定非営利活動法人高知県西部NPO支援ネットワーク）
順不同敬称略

参考文献

『人と自然のふれあいほんどぶっく』
2010年 著者 NACS-J ふれあい調査委員会 発行（公財）日本自然保護協会
『日本の生物多様性「身近な自然」とともに生きる』
2010年 著者 NACS-J 生物多様性の道プロジェクト生態系サービスモニタリングチーム 発行（公財）日本自然保護協会
『幅多学事始』
2012年 著者 幅多学ことはじめ組（特非）高知県西部NPO支援ネットワーク
『「地域のか」診断ツールワークブック』
2016年 編集・発行（一財）CSOネットワーク

レイアウト・イラスト a i s a k i
企画・編集・撮影 谷川徹（農と生きもの研究所）

